

## 第2回検討会議（R5.7.7）後に意見等記入票で寄せられた意見

### 1 5月29日全体会及び意見等記入票での主な意見等の整理についての意見

#### ■検討会議委員①

- カタカナ表記の語句が多く、先進的な教育構想や制度を検討する意欲を感じるが、その構想や制度が必ずしもすぐには全ての高校や生徒、教員になじむとは考えにくい。
- 現実の高校生には落ち着いた座学、静粛な視聴、自主的な自学自習が成り立たない生徒も多く、現場の教員は苦勞しているのを忘れてはならない。

#### ■検討会議委員②

- 地域校の存続のためには、教育の質と教員の確保が必要である。そのためにも近隣の高校の教員と連携した授業（派遣方式）やオンラインでの授業（オンライン方式）、合同授業等の仕組みを作り、小規模校の存続を検討すべきと考える。

### 2 第1分科会での調査検討に当たって必要な視点についての意見

#### ■検討会議委員①

- アンケート調査の対象に、中高生、保護者のほかに、それ以外の社会を構成している方々、例えば祖父母や地区（町内）、高齢者組織等も加えたらどうか。

#### ■検討会議委員②

- 就学支援金制度もあり、公立高校と私立高校の垣根が低くなっている。私立高校は教員の異動がないため、部活動や学科編成で特色ある学びを提供しやすい環境にある。公立高校も特色を出すためには、勤務年数に左右されない人員配置も必要ではないか。

#### ■検討会議委員③

- 先日の会議において、県立高校にも私立に負けず劣らずの魅力が充分あることがわかった。そこで私の知る範囲で、県立より私立を選択するに至った理由を整理し、これからどのような点において県立高校の生徒をさらに増やしていくかについての私見をまとめさせていただいた。

#### ＜私立高校を選択した理由＞

- ・ 県立高校とそんなに変わらない学費で通学させることができる  
→ 私立は世帯収入に当てはめた助成制度により、低所得の世帯でも進学・通学させられる学費になったおかげで、進学させやすい学校になった
- ・ 交通費がかからない  
→ 通学バスの運行や、公共交通機関を使用した場合の助成・補助により、通学費がほとんどかからず、場合によっては県立高校に進学させるより学費が安くおさえられる

- ・ 寮がある
  - 遠距離通学にかかる通学の大変さから生徒を解放することができ、家からの通学では選択できなかった部活動や課外活動にも参加することができ、充実した高校生活を送ることができる。また、下宿やアパートを借りるより安価なのも魅力
- ・ 調理や福祉、看護等、将来の進路の基盤となる学びや資格を得ることができる科がある
  - 通学できる範囲にある県立高校に設置されていない科が私立高校にある場合は、それを選択する
- ・ 制服がかわいい
  - 県立高校の制服は伝統と歴史を重んじる為か、デザインが古かったり、実用的でなかったり、多様性に対応していなかったりするが、私立の制服はわりと頻繁にデザインが変えられているので、機能的でデザイン性が高く、今のニーズに沿ったものになっている為、着たいと思う生徒が多い
- ・ 県外に出たときのネームバリュー
  - 県外では県立高校より私立高校の方がセレブリティなイメージがあり、さらに青森山田高校のような全国的に名前が知れているような高校に進学・卒業すると、県外において出身校を聞かれた場合も、一目置かれたり、信頼につながったりする
- ・ 進路選択の有利性
  - 私立高校は、提携・連携等による推薦枠を大学に持っているところも多く、自力だけでは進学できないような大学への進学も望める
- ・ 不登校だった生徒の受け入れがよかった
- ・ 多様な生徒が集まるので、子どもの人生経験としての学びになる

#### < 県立高校を選択しない理由 >

- ・ 交通費の負担
- ・ 遠距離通学の負担
- ・ 家からの通学を選択した場合、部活や課外活動ができない
- ・ 寮が無い為、下宿やアパートを借りた場合の負担が大きすぎる
- ・ 通える範囲の県立高校に、自分の学びたい科が無い
- ・ 制服がダサイ
- ・ 高校卒業後の進学先を、自分の力だけで見つけていかなければならない

○ これらを踏まえると、まずは家計における学費の負担を減らすことで、自然と県立高校を選択する子どもは増えることが期待できる。

また、通える範囲での高校選択をする家庭がほとんどだったのも、学費をおさえる為だと考えられる。

一部の私立高校にあるネームバリューや、私立特有の推薦枠のようなものは、県立高校の魅力において今後の課題となるが、県立高校には私立高校には無い、高い水準

の教育を受けることができるという利点もある。その利点が進路選択にあまり活かされていないところは、残念に感じた。

私立を選択する理由、また、県立を選択しない理由をふまえると、家計における学費の負担が少なく、安心して通学させられる環境にさえあれば、県立高校への進路選択をする子どもは増えるのではないかと期待される。

また、調理などの特殊な科においては、先日の発表でも百石高校にあることがわかったが、東青地域から通学させるか、となると、現時点では金銭的に難しく、地域の私立高校にその科があるので、そこに通学する選択をする子どもが多いのも納得できる。

会議でのこれからの視点として「全国から募集をする」というものがあったが、県内の状況がそのまま全国のほとんどの地域に当てはまると考えられるのではないだろうか。

県立高校でありながら、県内全域の子ども達が進路選択にできない今の状況を、まずは経済面と生活面において改善することが先決であるように私には思えた。

そこからさらに県立高校でしか習得することのできない魅力を訴えたら、この問題は解決への糸口が見えるのではないだろうか。

#### ■検討会議委員④

- 八戸北高校の難関大プロジェクトやメディカルプロジェクト、五所川原工科高校の普通科と工業科の融合など、他地区、他校でも実践可能な取組やそのヒントがあるのではないかと感じた。
- 大学においては、文理融合型、リベラルアーツなど、文系理系の枠にとらわれない学びが実践されている。また、大学間の単位互換協定も進んでいる。青森県の高校教育においても、最新の大学教育にもヒントを得て、生徒の興味・関心に寄り添う学科再編や単位互換など、新たなチャレンジが必要なのではないかと思う。

### 3 その他

#### ■検討会議委員①

- 新知事の教育行政に対する姿勢や教育制度改革等に関する考えを確認しておく必要があるのではないか。